

シネラ

シネラ・ニュース
December.2000 No.53

特別企画
**アジアの
ドキュメンタリー**

特別企画
ジャン=リュック・ゴダール
『映画史』

12



書店などでよく見かける英会話の勧誘。もう一步クレイジーさが足りないのではないだろうか。例えば、人だかりができるようなパフォーマンスで心をつかむとか。そんな業界の人にも観ていただきたい作品。

『クレイジー・イングリッシュ』 イラスト&文:山下良平

映画誕生から未来へ！
20世紀最大の文化的事件と言われた
4時間半の大作を一挙上映!!

解説

常に最も新しい映画を撮り続けている世界の巨匠J·L·ゴダールが、10年の歳月を費して完成させた渾身の傑作。おびただしい数の劇映画、ドキュメンタリー映画、ニュース映画、小説、詩、歴史書、歴史的証言、哲学、映画論、美術論、絵画、彫刻、写真、そして音楽からの引用によって構成されたこの作品は、まるで結晶化された「世界の総ての記憶」である。

上映にあたって

20世紀を締めくくる今年最後の上映企画として、ジャン=リュック・ゴダールの『映画史』をお届けします。

この作品を『シネラ』で上映するにあたっては、相当勇気のいる判断が求められました。理由は三つ。まずは全8章、上映時間4時間半という大作であること。どのようにプログラムを組めば良いか迷方に悩んでしまいます。次に新作ロードショーとして地方展開している最中であること。そのため1,800円という、ふだん『シネラ』を御利用いただいているお客様にとっては大変高額な観覧料となってしまいました。しかしながら福岡以外での上映会場では全8章を二部に分け、それそれ別料金ということになっていましたので、これでも半額で御覧いただけることになります。

さて最後の理由ですが、それはこの作品の上映の仕方 있습니다。『映画史』のオリジナルはビデオです。ふつうこれほどの話題作となれば、どの映画館でも上映できるようにフィルムに変換されるのですが、ゴダールはそれを拒みました。あくまでビデオ作品として大スクリーンに投影されることを強く望んだのです。それは当然「極めて映像／音響クオリティーの高いビデオ投影」でなければいけません。果たして『シネラ』でそれが可能か。もちろんここでは「可能だ」と答えるしかありません。そう答えねば『映画史』を福岡に持つて来ることはできなかつたでしょう。『シネラ』が誇る映像システムを最大限駆使し、画像調整には万全を期し、ゴダール自身が望んだ『映画史』の完全なる再現に全力を注ぐ。それは映画に携わる私達にとっても大きな挑戦なのです。

20世紀のありとあらゆるヴィジュアル・テクノロジーを総動員したと言って過言では無いこのモニュメンタルな作品に最上のタイミングで出会うことができる、そんな幸運は滅多にありません。ぜひともお見逃し無く！

会期・時間：20日(水)～23日(土・祝)
14:00～18:45(途中休憩あり)
24日(日)
13:00～17:45(途中休憩あり)

観覧料：1,800円(第I部・第II部併せての料金)
●定員制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
●福岡市在住の65才以上の方、及び福岡市在住の障害者は900円(手帳の提示が必要です)。

主催：福岡市総合図書館 協力：フランス映画社、有楽興

映画史 第I部・第II部 Histoire(s) du cinéma

1998年／ビデオ(エレクトロ方式による上映)／カラー／フランス
268分(第I部149分、第II部119分)／日本語字幕付き

◆第I部 第1章=1A「すべての歴史」
第2章=1B「ただ一つの歴史」
第3章=2A「映画だけが」
第4章=2B「命がけの美」

◆第II部 第5章=3A「絶対の貨幣」
第6章=3B「新たな波」
第7章=4A「宇宙のコントロール」
第8章=4B「徴(しるし)は至る所に」

監督・編集 ジャン=リュック・ゴダール
出演・声 ジャン=リュック・ゴダール／ジュリー・デルピー
サビーヌ・アゼマ／アラン・キュニー

ジャン=リュック・ゴダール 映画史

特別講演／青山真治(映画監督)

日時：23日(土・祝)13:00～13:50

※開場は開演の30分前。入場は有料制で、『映画史』の観覧料に含まれます。

青山真治(映画監督)

1964年北九州生まれ。立教大学卒。劇場映画デビュー作「Helpless」('96、日本プロフェッショナル映画大賞受賞)が大反響と共に迎えられる。代表作に「WILD LIFE」('97)、「SHADY GROVE」('98)など。映画評論も手掛ける理論派として知られている。最新作「EUREKA(ユリイカ)」は2000年カンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞とエキュメニック賞を受賞。



●1日(金)13:00 ●2日(土)17:00

クレイジー・イングリッシュ

監督：チャン・ユアン(張元)

1999年／35ミリ／カラー／90分
中国／日本語・英語字幕付き



「瘋狂英語」の名前で中国全土で知られるリー・ヤンのユニークな英語教育を描いた作品。彼の英語教育は自らをクレイジーと呼ぶパフォーマンス性の強いもので、本作では万里の長城や北京大学等で行われる講義と、それに熱狂する市民達が描かれる。

●1日(金)16:00 ●2日(土)11:00

わたしの見島

演出：「CINEMA塾」十原一男



1999年／16ミリ／カラー／100分／日本

新しい時代の映画人を養成する目的で始まった「CINEMA塾」の第1回作品。映画は萩市の離島・見島に住む人々とその生活、そしてそれぞれの見島観を捉えていく。日本の共同体意識とドキュメンタリーのリアリティについて考察した作品。

●1日(金)19:00 ●2日(土)14:00

あんによんキムチ

監督：松江哲明



1999年／16ミリ／カラー／52分／日本

在日韓国人である監督は、普段自分が韓国人であることを意識してこなかった。彼の祖父は韓国を棄て、日本人になりきろうとした。祖父は孫たちに何を残し、伝えようとしたのか。監督自身の目で探る在日韓国人としてのアイデンティティ。

●1日(金)19:00 ●2日(土)14:00

ハイウェイ

監督：セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ



1999年／35ミリ／カラー／54分
フランス＝ドイツ／日本語・英語字幕付き

中央アジアとモスクワを結ぶハイウェイを、古いバスで旅する旅芸人の家族を描いた作品。両親と1才から16才までの6人の子供からなるタジバジエフ一家は、大道芸を見せながら旅を続ける。そんな一家の生活をカメラは淡々と描き出していく。

●6日(水)13:00 ●7日(木)16:00

チョンおばさんのクニ

監督：パン・チヨンイ(班忠義)



2000年／16ミリ／カラー／90分
日本／日本語字幕付き

中国の山村に住む韓国人の元従軍慰安婦のチョンおばさん。彼女の望みは一度故郷に帰ること。しかしチョンおばさんはすでに韓国語は忘れており、韓国には彼女の肉親は一人もいなかった。日本在住の中国人監督により、企画、撮影された作品。

●6日(水)16:00 ●7日(木)19:00

メイド・イン・フィリピン

監督：ディツィ・カラノ
サダナ・ブクサニ



1999年／ビデオ／カラー／84分
フィリピン／日本語字幕付き

働くフィリピン女性をテーマにした3部構成の作品。ルソン島の衣料工場で働くエルザ。東京に住み写真や映画作りの夢を持つヴェン。福岡で生活するマーリーン、エミリー、ケイの三人の仕事と生活が描かれる。

●6日(水)19:00 ●7日(木)13:00

江湖

監督：ウー・ウェンガン(吳文光)



1999年／ビデオ／カラー／150分
中国／日本語字幕付き

貧しい村の親子が村を脱出するために興行師となり、村の若者を誘って、移動ショーを行う。一座はカラオケでポップスを聞かせ、ビキニショーを目玉にして町を回る。ところが当局の目の厳しくなり、給料も出せなくなる。

●8日(金)13:00 ●9日(土)17:00

望郷

監督：シュー・シャオミン(徐小明)



1997年／35ミリ／カラー／85分
台湾／日本語字幕付き

台湾において困難な状況にあるアジア人労働者について描いた作品。フィリピン人の家政婦、タイ人の建築現場労働者等にインタビューを行い、それぞれの望郷の念が繰り重ねていく。97年山形ドキュメンタリー映画祭国際批評家賞受賞。

●8日(金)16:00 ●9日(土)11:00

息づかい

監督：ピョン・ヨンジュ



1999年／16ミリ／カラー／77分
韓国／日本語字幕付き

イ・ヨンスさんは第二次大戦中、日本軍により台湾に連れて行かれ、従軍慰安婦として3年間を過ごす。またキムさんは13才の時、ハルビンに連れて行かれ、そこで梅毒に感染する。この映画は彼女らの被害の賠償を求める活発な活動を描いたものだ。

●8日(金)19:00 ●9日(土)14:00

イラン式離婚狂想曲

監督：キム・ロンジット
ジバ・ミル=ホセイニ



1998年／16ミリ／カラー／80分
イラン＝イギリス／日本語字幕付き

この映画イランにおいて結婚が破綻したときの苦痛と問題を扱っており、6人の普通の女性がいかに離婚訴訟を行おうかが描かれる。99年山形ドキュメンタリー映画祭国際批評家賞受賞。

特別講演 ●●●●●●●●●●●● 10日(日)14:00~14:50

「アジアのドキュメンタリーの新しい地平」

講師：佐藤 真
(映画監督)

1957年、青森県生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。81年に「無事なる海—1982年 水俣ー」に助監督として参加。その後フリーとなり、88年から「阿賀に生きる」撮影のためスタッフ7人と共同生活に入る。92年「阿賀に生きる」完成。芸術選奨文部大臣新人賞ほか多数受賞。96年(有)カサマフィルムを設立、テレビ作品、映画の構成、編集、映画祭プロデュース等多角的に活躍。98年監督第二作「まひのぼし」完成。

著書として「日常としての鏡」(凱風社)がある。

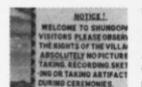


※開場は開演の30分前。入場は有料制で、当日の「まひのぼし」の観覧料に含まれます。

●10日(日)11:00 ●13日(水)13:00

イマジニング・インディアン

監督：ヴィクター・マサエスヴァ
1992年／16ミリ／カラー／79分
アメリカ／日本語字幕付き



アメリカの先住民であるインディアンをテーマにした作品。「ダンス・ウイズ・ウルブズ」をはじめ、ハリウッド映画にエキストラとして登場したインディアン達のインタビューを中心にして、彼等がどのように扱われてきたかが描かれる。

●10日(日)11:00 ●13日(水)13:00

思いやりの話

監督：チャン・ヴァン・トゥイ
1985年／16ミリ／カラー／45分
ベトナム／日本語字幕付き



ベトナムの経済開放政策「ドイモイ」以前のハノイの庶民の生活を扱った作品。監督の友人が死に際して、「思いやりの映画」を作るよう遺言する。監督は様々な職種の人々に「思いやりとは何か」などをインタビューしていく。

●10日(日)15:00 ●13日(水)16:00

まひのぼし

監督：佐藤真

1998年／16ミリ／カラー／93分／日本



7人の、障害を持つアーティストの映画。独創的な絵画を描くシュウちゃん、陶器作りを行うヨシヒコさん、女の子が大好きなアーティストのシゲちゃん等、様々な障害者とそのアートが描かれており、さわやかな感動を与える作品。

●13日(水)19:00 ●14日(木)13:00

労使間の滑稽な競争

監督：ルオ・シンジエ(羅興階)
1998年／ビデオ／カラー／136分
台湾／日本語字幕付き



突然閉鎖された東洋針織会社の工場では、組合に入っていた人々の自ら団体が組織され、団体のリーダーには一人の主婦が担ぎ上げられる。そして退職金と年金の支払いを求める戦いが始まる。98年台北映画祭で非商業映画賞を受賞した作品。

●14日(木)16:00 ●16日(土)17:00

新しい神様

監督：土屋豊

1999年／ビデオ／カラー／99分／日本



主人公は茶葉に戦闘服でパンクロックを歌う民族派バンドのボーカル、雨宮処凜(あまみやかりん)。天皇に恋する主人公に反天皇主義の監督がインタビューし、共に北朝鮮へ旅立っていく。この奇妙な交流を通じて、世紀末日本の自画像を描いていく。

●15日(金)13:00 ●16日(土)11:00

3本足のカラス

監督：オ・ジョンフン
1997年／ビデオ／カラー／72分
韓国／日本語字幕付き



政治活動のため10年以上も投獄されている詩人、パク・ノヘ。彼が獄中に出版した著書は多くの労働者に支持され、ある種のヒーローになっていた。この映画はパク・ノへの人生を描き出すと同時に、転換期を迎える韓国社会を描いていく。

●15日(金)13:00 ●16日(土)11:00

モーゼからの権利証書

監督：アッザ・エル・ハサン
1998年／ビデオ／カラー／30分
日本語字幕付き



パレスチナ人である監督が、イスラエル入植地の拡大に疑問を持ち、家を壊され立ち退かされるパレスチナ人家族、そして「モーゼの時代からの権利証書」を持つというイスラエル住民等にインタビューした作品。イスラエルとパレスチナの現実が描かれていく。

●15日(金)16:00 ●17日(日)15:00

美麗少年

監督：ミッキー・チェン(陳俊志)
1998年／ビデオ／カラー／63分
台湾／日本語字幕付き



10代のゲイの少年達と家族の関係を率直に描いた、3部構成のオムニバス映画。登場するのは米国留学前に恋人と別れる決心をした小羽、女装を楽しむ美少年の小丙等。少年達の楽しい伸びやかなおしゃべりが話題となり、台湾では異例の劇場公開された作品。

特別企画

日本とアジアの最先端の“今”を伝える。

アジアのドキュメンタリー

監修：佐藤真(映画監督)

会期：1日(金)、2日(土)、6日(水)～10日(日)、13日(水)～17日(日)

観覧料：600円(大人) 500円(大学生・高校生) 400円(中学生・小学生)
2,000円(5回券) 5,000円(フリーパス)

●定員制、各回入替制。 ●チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

●福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65歳以上の方は400円。(手帳の呈示が必要です。)

主催：アジアのドキュメンタリー実行委員会、福岡市総合図書館

後援：山形ドキュメンタリー映画祭実行委員会 協力：アース・ビジョン組織委員会

新時代のドキュメンタリー

近年、ドキュメンタリー映画が注目を集めている。山形国際ドキュメンタリー映画祭や地球環境映像祭等の定着が大きく影響しているが、従来のドキュメンタリー映画のイメージが変わってきることもその理由だ。社会的な告発、問題の記録などが従来のドキュメンタリー映画のイメージであった。今回の特集でも「

ツダの嘆き」や「ナルマダの悲しみ」等、目を背けてはいけない現実を真摯に描いた作品がある。しかしドキュメンタリーの魅力はそれだけではない。

「あんよんキムチ」「ファザーレス 父なき時代」

はいずれも自分探しをテーマとした作品だが、その映像は作家個人を超えて、今を生きる我々に刃のように向かっている。監督にはおそらくドキュメンタリーを作ることだ。クレイジー・イングリッシュ「まひのぼし」も、ドキュメンタリー的手法をとつてはいるが、もはやその枠には収まらない作品である。現実は切り記録に留まらない作品群は、我々のアジア、そしてドキュメンタリーという固定観念を揺さぶり、新たな映像の魅力を提示している。

まつたく新しい劇映画を見ているような感覚は、新時代のドキュメンタリーを思わせる。その他にも単なるド

記録から離れた、作家の映画へと変貌していく。『諫早湾潮止めから2年～いのちの海を失って～』

監督：高松明日香

1999年／ビデオ／カラー／49分
日本

日本最大級の干潟が広がっていた長崎県諫早湾。1997年の春、公共事業により分断された諫早湾の、失った自然の大さが描かれる。監督はKBC九州朝日放送に勤める記者である。99年地球環境映像祭優秀賞受賞。

●15日(金)16:00 ●17日(日)15:00

いのちの海を失って

～諫早湾潮止めから2年～



監督：ハサン・カラジャダー
1999年／ビデオ／カラー／23分
トルコ／日本語字幕付き

●15日(金)19:00 ●16日(土)14:00

太陽はどこに？



監督：茂野良弥

1998年／ビデオ／カラー／78分／日本

経済的な発展を続けるトルコ西部に比べ、クルド人が多く住む東部は貧しい状況のまま取り残された観がある。イスタンブルやアンカラに移住した人々の失業や貧困、都会で待ち受ける過酷な運命を、詩的で幻想的な映像で描き出した作品。

●15日(金)19:00 ●16日(土)14:00

ファザーレス 父なき時代



監督：村石雅也

1998年／ビデオ／カラー／78分／日本

主人公は監督の友人である22才の青年・村石雅也。彼は登校拒否、家庭崩壊、同性愛などの問題を抱えていた。彼は長野県の自宅に帰り、父や母との会話を通じて、自らの問題を振り下していく。マンハイム国際映画祭でグランプリを獲得した注目作。

●15日(金)19:00 ●16日(土)14:00

ナルマダの悲しみ



監督：アヌラグ・シン
1997年／ビデオ／カラー／80分
インド／日本語・英語字幕付き

●14日(木)19:00 ●17日(日)11:00

ナルマダの悲しみ

監督：シユリ・プラカッシュ
1999年／ビデオ／カラー／56分
インド／日本語・英語字幕付き

インド、ナルマダ川のダム建設のため水没する運命となった村の人々の抵抗運動の記録。監督は住民と共に7年もの撮影を行っている。インドの200以上の村や欧米の40以上の大学で上映された作品。97年地球環境映像祭優秀賞受賞。

●14日(木)19:00 ●17日(日)11:00

ブッダの嘆き



監督：ミッキー・チェン(陳俊志)
1998年／ビデオ／カラー／63分
台湾／日本語字幕付き

インドのジャドウゴダは、インドで唯一のウラン鉱の発見により有名になった土地だ。放射性物質の危険性を知りながらもウラン会社は、人体の安全を守るために方策をなもとっていないのだった。99年地球環境映像祭大賞受賞。

「福岡のリュミエール」

総合図書館では数多くの貴重な映像資料を収集していますが、とりわけ『リュミエール・プログラム』(35mmフィルム)は逸品中の逸品と言えるでしょう。このフィルムは1995年、「映画生誕百年祭」の一環として上映されたものです。その後、各地での巡回上映を了え、当図書館の開館とほぼ同時に収蔵されました。なぜこのフィルムが福岡にあるのかと度々聞かれます。ナショナル・アーカイブに収蔵されるべきだろうと。残念ですが、アジア有数のフィルム・アーカイブである当施設のことは余り知られていないようです。

私はこのフィルムとは縁があります。福岡に来る前の職場でのこと。「東京国際映画祭」の仕事でドタバタしていた私は、ある日、それとは別件でやつてほしい仕事があると言われました。とてもできる状態ではないと思いましたが、とにかく手伝う以外になさそうです。フランスから来た妙に大きなフィルム缶を開けると、そこには映画の卵のようなものが詰まっていました。一分程度の短いフィルムが、それぞれ芯に巻かれた状態でばらばらになって入っていたわけです。「こいつを明後日までに編集しなくてはならない。映画祭の仕事を遅らせるわけにはいかないから、これは深夜だけの作業だ。それでなんとか間に合わせよう」とボスは言いました。「なんですか、これ?」「リュミエールだ!」……。

そういうわけで、私は深夜せつと編集に勤しんだわけです。それは単に個々の作品を繋ぎ合わせるというだけの作業ではありませんでした。



リュミエール・プログラム「日本編」

日本で現像されたタイトルを挟み込んでいかねばならないからです。そうやって全5プログラム、約90分(1秒24駒換算)の作品が仕上がりました。その間ほとんど寝ていません。編集は300箇所を超えていました。こんなつぎはぎだらけのフィルムがマトモに映写できるのか。「おまえが映写するのだ」とボスは言いました。翌朝には試写が組まれていたのです。

おそらくリュミエールの作品を、普通に上映できる「90分番組」の形で収集している施設は世界的にも少ないのでしょうか。ここには映画の世界初上映として知られている1895年「グラン・カフェ」の

プログラムがそっくり再現されていますし、明治の日本を撮影した極めて貴重なプログラムも含まれています。しかも総てニュープリント。

つまり大変な世界財産を預かっているわけです。もちろん、いかに貴重とは言え、持っているだけでは意味がありません。シネラでは過去に一度、ピアノ伴奏付きでこの作品を上映しています。おそらくまたいつかご覧いただける機会が来ると思いますので、どうぞお楽しみに。

さて今月のシネラでは、「映画生誕から未来へ!」というキャッチフレーズでゴダールの『映画史』を上映いたします。リュミエールに向かわれるレトロな視線も大切ですが、同じ視線でもってこの『映画史』を観たならば感電死(何せエレクトロ方式ですから!)するかも知れません。それほど刺激的な作品です。

映像資料課映像管理員 松本圭二

12月

上映スケジュール

1 金	ドヤジン クリー・イングリッシュ 13:00 11:00	16:00 14:00	19:00 17:00
2 土	シスター わたしの見島 11:00	14:00	17:00
3 日	自主上映「五瓣の椿」		
4 月	休館日		
5 火	休映日		
6 水	チヨンおばさんのケニ メイド・イン・フィリピン 13:00 16:00	19:00 19:00	江湖
7 木	ア 江湖 13:00 16:00	19:00 19:00	チヨンおばさんのケニ メイド・イン・フィリピン
8 金	ジ 望郷 13:00 16:00	19:00 19:00	息づかい イラン式離婚狂想曲
9 土	ア の 息づかい 11:00 14:00	17:00 17:00	イラン式離婚狂想曲 望郷
10 日	ド マジック・インディアン 思いやりの話 11:00 14:00	15:00 15:00	講演/佐藤真 まひるのほし
11 月	キ ユ	休館日	
12 火	ユ	休映日	
13 水	メ ン 13:00 16:00	19:00 19:00	メイジング・インディアン 思いやりの話 まひるのほし 労使間の滑稽な競争
14 木	ン タ 13:00 16:00	19:00 19:00	タルマダの悲しみ ラッダの嘆き
15 金	リ 13:00 16:00	19:00 19:00	3本足のカラス モーゼからの権利証書 美麗少年 いのちの海を失って
16 土	1 11:00 14:00	17:00 17:00	2アザーブ 父なき時代 太陽はどこに? 新しい神様
17 日	1 11:00 15:00	15:00 15:00	ナルマダの悲しみ ラッダの嘆き 美麗少年 いのちの海を失って
18 月		休館日	
19 火		休映日	
20 水	ゴ ダ 14:00~18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
21 木	ーリ 14:00~18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
22 金	の 14:00~18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
23 土・祝	映 13:00 講演/青山真治 西 史 14:00~18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部	14:00~18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部	
24 日	1 13:00~17:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
25 月		休館日	
26 火		休映日	
27 水		休映日	
28 木		休館日	
1/4 木		年末・年始の休館日	



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神→都市高速経由→福岡タワー南口
(所要時間 昼間で約20分)
博多駅→都市高速経由→福岡タワー南口
(所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑記

“Y2K”で明けた2000年も残りあと1ヶ月。シドニーオリンピックにおける女子マラソン金メダルとON対決によるプロ野球日本シリーズは、20世紀最後の年を象徴すべき出来事だったような気がする。

ところで20世紀は“映画の時代”でもある。その20世紀の最後の月にシネラが「アジアのドキュメンタリー」と「ゴダールの映画史」をお届けできることは意義深いものと思っている。是非ご覧頂きたい。(M・Y)

INFORMATION お知らせ

各団体の自主上映

- 12月3日(日)11:00/14:30
「五瓣の椿」(監督:野村芳太郎)
観覧料/前売:1,500円
当日:1,800円
中高生・シニア:1,000円
主催/福岡映画サークル協議会
(Tel. 092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料 1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)

※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成13年1月号~平成13年3月号までの郵便切手(90円×3月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

映像ホール利用申し込みについて

映像ホール・シネラで自主上映(非営利に限る)を希望される方は、下記のとおり利用申込みの受付を行いますのでお申し込みください。

○利用申込対象期間

平成13年6月から同年11月分まで
※別途配布の申込用紙に対象日を掲載しています。

○申込受付期間

平成12年12月1日(金)~12月13日(水)必着
※休館日を除く

○抽選日

平成12年12月17日(日)午前11時より

○抽選会場

福岡市総合図書館・3階第2会議室

○利用申込用紙

福岡市総合図書館で配布中の申込用紙をお出し下さい。

お問い合わせ

福岡市総合図書館映像資料課(事業係)

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

TEL 092-852-0608